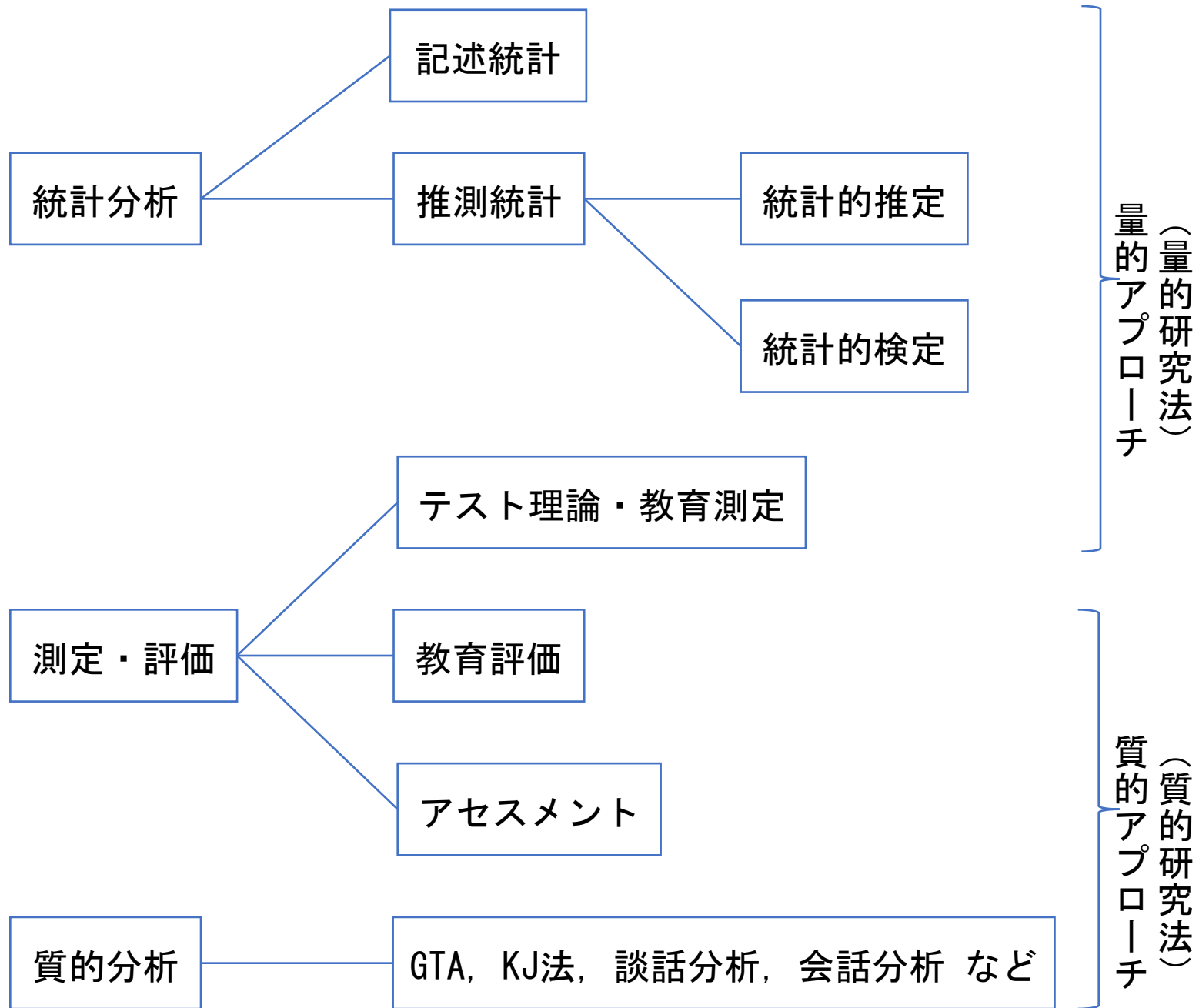


教育評価



測定・評価の必要性 1

- 教育現場において，児童生徒の学力や能力を伸ばし発展させていくためには
- 学力や能力を適確に捉えることが必要
- 適確に捉えてはじめて，
子どもが自分の学習を振り返ったり
教師が指導に生かしたり
授業の改善に役立てたりすることができる

測定・評価の必要性 2

- 学力や能力を適確に捉えるためには
学力や能力を適切に測定することが必要
教育活動全体を的確に評価することが必要
- 測定と評価は，一体となって児童生徒の発達に寄与する
- 領域的に測定は心理学，評価は教育学に含まれることが多く，
十分な連携を持たないまま発展してきた
- 主に教育領域における測定・評価を，教育測定・教育評価
と言う

教育測定・アセスメント・教育評価

- 測定とアセスメントの違いは？
- 測定・アセスメントと，評価の違いは？
- 評価はどのような営み？

教育測定

- **教育測定**：学力や能力などに関する客観的な推論を行うために、何らかの尺度を用いて、学習者におけるそれらの特性を数量化すること
- 測定するといっても、テストを使うときもあれば、実技を評価したり、授業中の様子を観察するなど、いろいろな方法がある
- テストなどを用いて数量化することにより、教師の主観などの影響を少なくし、より適切な測定を目指す

アセスメント

- **アセスメント**：評価や何らかの意思決定を行うために，多様な視点から，対象に関する情報を多面的に収集すること
- 教育測定よりも広がりのある情報収集活動
- 児童生徒の学力や能力には，数量的に捉えられず，かつ非常に重要な意味を持つものも多数存在する
- 子どもが何につまずいているかを把握したり，指導法を考えたりするにあたって，関連するさまざまな情報を収集する

教育評価

- **教育評価**：児童生徒の発達のために、教育のさまざまな過程において、集めた情報を用いて教育活動を検証し改善する営み
- 児童生徒の学力や能力を伸ばし発展させるためには、教育活動のさまざまな過程において、教育測定やアセスメントで収集した情報を吟味して、どのような教育・学習が展開されていたかを検証し、改善していくことが必要
- 教育評価は、その一連の過程

測定・評価の主な目的

- **指導** (教師)：発問，小テスト，定期テストなどを用いて，学習状況の確認，学習支援，成果の確認をすることにより，指導法の立案・展開・改善を図る
- **学習** (児童生徒)：自身の学習を振り返り，成果を確認するとともに，学習方法を見直す
- **管理** (教師，学校，自治体，国)：成績評価，学校運営，施策の検証・決定など
- **研究** (研究者，実施機関)：現状の確認や改善

測定・評価のプロセス

- 何を評価するか（評価対象）を明確にする
- どのような観点から評価するか（評価規準）を設定する
- 観点ごとに段階（評価基準）を設定し、適切な評価方法を選択する
- テストや課題などを用いて評価資料を収集する（測定、アセスメント）
- 収集した評価資料から、児童生徒の学習状況や改善点などを把握し、情報提供やフィードバックを行う（評価）

アセスメント法の分類の違い

- 測定と評価で、アセスメント法の分類はどのように異なるか？
- それぞれの着眼点はどこか？

アセスメント法の分類

- 測定と評価で分類の枠組みが少し異なる

表11-2 アセスメント法の分類

測定における分類		評価における分類		アセスメント法	
選択式	択一式	筆記	客観テスト	真偽法（正誤法）	
	複合式			多枝選択法	
複数選択法					
組合せ法					
並べ替え法					
構成式			記述式	穴埋め法	
	短答法				
	自由記述	短文法			
		作問法			
		作図法			
	パフォーマンス式	パフォーマンス	課題	論述法	
成果物・作品 実技・実演					
プロセス			口述・面接 活動		
				ポートフォリオ評価	

- ポートフォリオ：一定の規
準・基準に照らして，学習
活動の成果や証拠となるも
のを系統的・継続的に収集
したもの
- 「選択肢」を「選択枝」，
「受験」を「受検」と書く
ことも最近では多くなっ
ている

評価規準・評価基準

- 評価規準（のりじゅん）：

評価の観点

ex)「教科への関心」

- 評価基準（もとじゅん）：

各観点における評価の段階設定

「自分から進んで課題を設定し取り組むことができる」

「与えられた課題に取り組むことができる」

「課題に取り組めないことがある」

評価規準・基準による教育評価の分類

- **絶対評価（広義）**：あらかじめ評価の観点（規準）および段階（基準）を設定し，それに基づいて対象となるすべての個体を評価する（**基準準拠評価**）
- **相対評価**：広義の絶対評価と対をなすもので，対象集団を規準とし，集団の中の相対的位置を基準として評価を行う（**集団準拠評価**）
- **個人内評価**：対象とする児童生徒ごとに規準・基準を設定し評価する

絶対評価（広義）の方法

- 認定評価
- 到達度評価
- 目標に準拠した評価
- 観点別評価

絶対評価の方法の違い

- 認定評価の具体例は？
- 到達度評価の具体例は？
- 目標に準拠した評価と、観点別評価の違いは？

認定評価

- 評価者の中に評価の規準・基準がある評価法
- 評価者自身で規準・基準を設定できる
- 主観による独断的な判断になりやすい
- 狭義の絶対評価

到達度評価

- 「～ができる」「～がわかる」という到達目標を規準，その到達段階を基準とする評価法
- 到達目標は，「繰り上がり計算ができる」など，当該の教育活動で獲得すべき学力や能力を具体的に設定
- 目標が具体的なので分かりやすい反面，**範囲が狭い，結果しか評価しない**などの問題点がある
- 診断的評価，形成的評価，総括的評価

目標に準拠した評価

- 到達度評価よりも大きい教育目標を規準，達成のレベルを基準として評価する方法
ex) ある単元を学ぶことにより身につく学力や能力
- 今日の学校教育における通知表は，目標に準拠した評価の方法に基づいて作成されている
- 複数の目標規準を設定する場合は，評価の規準と基準を一覧表に整理したルーブリックを作成して評価を行う

統計分析力ルーブリックの例

評価基準

評価規準

	4	3	2	1
思考力	授業で扱っていないデータ分析法について、根拠を持って検討できる	授業内容に基づいて、新規データの分析法を考えられる	授業で扱ったデータ分析法を理解している	授業で扱ったデータ分析法を理解していない
分析力	分析結果の合理性を検討することができる	分析結果に基づいて、整合的な解釈を導くことができる	分析結果を読み取ることができる	分析結果を読み取ることができない
スキル	統計ソフトを活用するプログラムを書くことができる	エラーを自分で解決できる	統計ソフトを扱える	統計ソフトを扱えない

観点別評価

- 評価の観点を到達度や目標に限定することなく、評価に必要な多様な観点を設定し評価を行う
- 高次思考力やパフォーマンスの評価など、**真正性の高い評価**を行う場合に用いられる
- 評価基準を詳しく記述したルーブリックを作成
- 観点別評価に加え、全体を統合した総合的な評価を行うこともある

目標に準拠した評価や観点別評価の問題点

- 評価規準や評価基準の設定や、実際の評価が容易ではない
- 教育活動ごとに規準や基準の策定が必要であり、多大な労力を要する
- 機械的な規準・基準にすれば、個々の教育活動に合わない不適切な評価になり、本来の意味を失う
- 共通テストへの記述式問題導入が頓挫した理由の1つ
理念や理想だけを言って、**現実検討能力がなかった**

偏差値

- 相対評価の指標
- 対象集団全体の平均を50，標準偏差を10として，ある特性について，個人の得点の相対的な位置を表す
- 対象集団に依存するため，同じ個人でも対象集団が違えば偏差値は異なる値になる(異なる予備校の模試だと偏差値が異なる)
- 個人の能力が上昇しても，集団全体の能力も上がっていれば，個人の偏差値は変わらず，学力の伸びが値に反映されない → 項目反応理論を用いた共通尺度化

個人内評価

- 児童生徒自身が行う **自己評価**ではなく，教師などの評価者が対象とする児童生徒の評価を行う
- **縦断的個人内評価**：過去の当該児童生徒を基準に評価
- **横断的個人内評価**：複数の観点から当該児童の得手不得手を評価
- 当該児童生徒の長所や短所を捉えやすい
- 主観的，独断的になってしまう危険性がある
- 目標に準拠した評価などを併用し，より適切な評価を目指す

絶対評価・相対評価・個人内評価の違い

- それぞれの評価規準・評価基準の取り方は？
- 評価の具体例は？

目的と時期による評価の分類

- ブルーム (Bloom, B. S.) は、評価を行う目的と時期によって、評価のタイプを、**診断的評価**、**形成的評価**、**総括的評価**に分けた
- 到達度評価では、この考え方を評価の過程に取り入れている
 - 学習前の状態の確認 (**診断的評価**)
 - 学習過程における理解の状況の把握 (**形成的評価**)
 - 学習後の到達度の確認 (**総括的評価**)
- 指導と評価の一体化

診断的評価

- **時期**：単元を学習する前や，学期の始まり，学年の始まり等
- **目的**：それまでの学習の程度や，今後の学習への準備状況などを確認
- **活用**：児童生徒の準備状況や学習状況に応じて復習を行ったり，今後の指導計画の立案や授業方法の修正を行ったりする

形成的評価

- 時期：学習の過程
- 目的：児童生徒の理解状況を確認
- 活用：指導法を修正したり改善したりして，学習成果の向上を目指す

指導と評価の一体化

- 情報提供やフィードバックの後に、教育や学習を振り返り改善すること
- 評価を指導の改善に生かすこと
- 形成的評価は、指導と評価の一体化を実現する重要なアプローチの1つ

総括的評価

- 時期：単元の学習後，学期末，学年末など
- 目的：学習の成果の確認
- 活用：学習の成果を児童生徒自身及び教師が確認し，学習しきれなかった内容の復習や，指導法の改善，また成績評価にも利用される

診断的評価・形成的評価・総括的评价

- 1つの授業実践を考えて、診断的評価、形成的評価、総括的評価の具体例を考えてみよう
- 授業内容
- 具体的な評価の時期と方法

参考文献

- 石井秀宗 (2022). 測定と評価 高村和代・安藤史高・小平英志(編). 主体的に学ぶ発達と教育の心理学 ナカニシヤ出版 pp.102-112
- 石井秀宗・滝沢 龍 (編) (2021). 公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法] 医歯薬出版
- 教育心理学系のテキストの測定・評価に関する章
- 教育評価系のテキスト